

**ダイアボンド No.2490**

[90分硬化タイプ・エポキシ樹脂系接着剤]

ダイアボンドNo.2490は2液混合形のエポキシ樹脂系接着剤です。金属、陶磁器、コンクリート、木材など広範囲にご使用頂けます。

§ 特長

1. 混合後、常温において40分でゲル化し、90分で実用強度に達します。(完全硬化まで3時間)
2. 50 mlのカートリッジ詰めですので、専用ガンを使用して、均一に混合できます。

§ 一般性状

|                   |                 |                 |
|-------------------|-----------------|-----------------|
|                   | 主 剤             | 硬化剤             |
| 主 成 分             | エポキシ樹脂          | ポリチオール          |
| 外 観               | 乳白色             | 淡黄色             |
| 不 揮 発 分 (%)       | 100             | 100             |
| 粘 度 (mPa·s) at20℃ | 30,000 ~ 60,000 | 25,000 ~ 50,000 |
| 混 合 比             | 100 対 100       |                 |
| 可 使 時 間 (分)       | 40 (10g 混合)     |                 |
| 硬 化 時 間 (分) at20℃ | 90 (完全硬化まで3時間)  |                 |
| 保 証 期 間 (月) at25℃ | 6               |                 |

§ 接着性能

1. 引張りせん断接着強さ (JIS K6850 に準ずる) (MPa)

|                 |                 |                    |
|-----------------|-----------------|--------------------|
| アルミ板 (A5052) 相互 | 鋼板 (SPCC-SD) 相互 | ステンレス板 (SUS304) 相互 |
| 9.6             | 14.2            | 10.0               |

2. 曲げ強さ (JIS K 6856 に準ずる) (MPa)

|        |
|--------|
| モルタル相互 |
| 11.6 * |

\* : モルタルの破断

## § 注意事項

- ・ 使用可能時間は、気温や混合量によって異なります。混合量は、可使時間内に使い終える量にして下さい。
- ・ 火気のあるところでは使用しないで下さい。
- ・ 容器を密閉して、直射日光の当たらない場所で、5℃～35℃で保管して下さい。
- ・ 使用器具の洗浄には、アセトンをご使用下さい。
- ・ 作業中は、換気をよくし、蒸気を吸い込まないようにして下さい。
- ・ 取り扱い中は、出来るだけ皮膚に触れないようにし、必要に応じて有機ガス用防毒マスクまたは送気マスクを付け、さらに頭巾、保護眼鏡、長袖の作業衣、えり巻きタオル、保護手袋を着用して下さい。
- ・ 容器から出し入れする時は、こぼれないようにして下さい。容器からこぼれた場合には、布でふき取り、密閉できる容器に回収して下さい。
- ・ 取り扱い後は、手洗いおよびうがいを充分に行って下さい。
- ・ 作業着などに付着した場合には、その汚れを良く落として下さい。
- ・ 皮膚に付着した場合には、多量の石けん水で洗い落とし、痛みまたは外観に変化があるときには、医師の診断を受けて下さい。
- ・ 蒸気、ガスを吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診断を受けて下さい。
- ・ 誤って飲み込んだ場合には、出来るだけ早く医師の診断を受けて下さい。
- ・ 子供の手の届かない所に保管して下さい。
- ・ 空容器は、中身を使いきってから廃棄して下さい。
- ・ 接着剤を廃棄する場合は、産業廃棄物の許可を受けた専門業者に委託して下さい。
- ・ 指定された以外の材料と混合しないで下さい。
- ・ 本来の用途以外には使用しないで下さい。

☆ 上記の接着性能データは、当社実験室で得られた値ですので、接着剤選定の目安としてご使用下さい。環境条件や作業条件などにより、得られる値も変化しますので、より正確な接着性能を求めたい場合は、それぞれの用途に合わせて確認試験されることをお勧めします。